



毎週帰ることじゃ！

福井大学遠赤外領域開発研究センター助教授 福井 一 俊
(前 極端紫外光科学研究系界面分子科学研究部門助教授)

大学の教官室で、まだ開けていないダンボールの山に囲まれながらこの原稿を書き始めました。たかが2年分の簡単な引越したと思っていましたが、いざ収納しようと思うと意外に量が多く、改めてこの2年の重さを感じさせてくれています。

さて、この2年間はUVSORを中心に活動させていただきました。施設ビームラインのBL7Bを担当させていただき、このビームラインの立ち上げの最終部分と整備及びユーザー対応を行いながら、他のビームラインも使わせていただくという放射光三昧の生活でした。

ところで、岡崎には単身赴任致しましたが、単身赴任歴連続20数年という大学のツワモノ教授から、“要は毎週帰ることじゃ”と言われ、まじめにもほぼ実行しました。おかげで、高速バスの常連となり（JRは高い！）他の常連を識別できるようになりました。しかし、彼らの年季を感じさせる乗りこなしは結局マスターできずじまいでしたが（ツワモノの中には、乗車中ずっと何かの資格試験の勉強をされている方がいて感心しました）、腰痛を避けたい私はひたすら寝ることにしました。乗ったらすぐ寝て、トイレ休憩もむやみに起きず、終点まで寝つづけるのが私の極意です。いかなる状況下でも（たとえシートが体に合わなくても）寝つづけることがマイスターへの道なのです。

最後にご負担を承知で流動に送り出してくださった大学関係者の方々、受け入れてくださった分子研の皆様方、そして単身赴任を可能にしてくれた愛する家族に心より感謝いたします。